

関連イベント

築山秀夫コレクション展  
世界のOZU

2024 11/16(土) → 2025 2/1(土)  
ギャラリートーク 12/14(土) 15:00-16:00 先着30名  
シネマフェスティバルチケット申し込み時にお申し出ください。

プレイベント

「小津ゆかりの深川」まちあるき

2024 12/11(水) 13:00-15:00  
参加費 100円 要申込み(定員10名)

「小津マルシェ」開催 小津関連グッズを販売します!

12/14(土) 15(日) 11:30-16:30

無料上映会

小津と語る

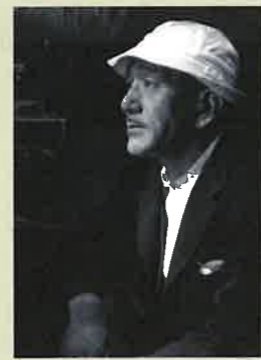
監督 田中康義  
世界の映画人へのインタビュー集

12/14(土) 11:30 15(日) 12:40/16:30

夏休み子ども映画教室作品  
ストップモーション  
アニメーションに挑戦

翠千会による「お茶席」

12/15(日) 12:00-15:30  
参加費 大人500円 子300円



映画のまち深川

～小津安二郎の生まれたところ～

日本映画の至宝と云われ、世界的な名匠としても名高い小津安二郎監督は明治36(1903)年、現在の東京都江東区深川に生まれ、約23年住み、デビュー作から33本の映画を深川時代に作りました。彼の作品は日本の家庭や家族のあり様を描き、その情愛の深さはかなさなど、日本人の心情を映像で表現し続けました。作品の中にしばしば見られる街の風景や登場人物には、彼を生み育て、住みなれた江東区の土地柄が大きな関わりと影響を与えています。

映画チケット【前売り】 全席自由 各回総入れ替え制

チケット 各800円

※当日券は各200円増し。各回開場時間に販売。前売券が完売の場合、販売はございません。  
※障害者付き添いの方1名は無料です。



目の不自由な方も映画を楽しんでいただくため、登場人物の動作や場面状況をセリフの妨げにならないよう音声(FMラジオ)で伝えます。【要予約】FMラジオの無料貸出があります。

会場・チケットのお申込み

江東区古石場文化センター  
☎ 03-5620-0224

11/10(日)  
10:00～  
受付開始

FAX 03-5620-0258 <https://www.kcf.or.jp>

受付時間 9:00-21:00 (休館日 第1・3月曜 ただし祝日は開館)

チケットは江東区内各文化センター/総合区民センター/ティアラこうとう/深川江戸資料館でも取扱います。(深川江戸資料館は17:00まで)

八郎右衛門の「深川めし」販売

12/13(金) 14(土) 15(日) 11:30-14:30

ちょっとひと休み「お茶」

12/13(金) 14(土) 11:30-16:30

福祉作業所まごころ市

12/15(日) 13:00-15:00

アクセス

江東区古石場文化センター  
135-0045  
東京都江東区古石場2-13-2

- 電車
- ② 東京メトロ東西線「門前仲町駅」  
T12 2番出口より徒歩10分
  - ④ 都営地下鉄大江戸線「門前仲町駅」  
E15 4番出口より徒歩15分
  - ③ JR京葉線「越中島駅」  
JE03 3番出口より徒歩10分
  - ④ 東京メトロ東西線「木場駅」  
T13 4番出口より徒歩10分

都営バス

- 都07 錦糸町駅 ⇄ 門前仲町
- 東22 錦糸町駅 ⇄ 東京駅北口  
「富岡一丁目」下車 徒歩7分
- 門33 亀戸駅 ⇄ 豊海水産埠頭  
「越中島」下車 徒歩10分



主催 公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団 江東区古石場文化センター

協賛

協力 松竹株式会社/株式会社マツダ映画社/全国小津安二郎ネットワーク/  
江東シネマアイ/古石場ムービー倶楽部/シネマボランティア



芸術文化振興基金助成事業



第18回

江東シネマ  
フェスティバル

没後60年を越えて ～小津安二郎の遺したもの～

2024 12/13(金) 14(土) 15(日)



「東京物語」©1953/2017 松竹株式会社



「虹をつかむ男」©1996 松竹株式会社 「晩春」©1949/2015 松竹株式会社 「結婚哲学」写真提供：(株)マツダ映画社 「東京の合唱」写真提供：(株)マツダ映画社 「PERFECT DAYS」2023 MASTER MIND Ltd. 「カッペン」©2019「カッペン」製作委員会 「写楽」©1995「写楽」製作委員会 「彼岸花」©1958/2013 松竹株式会社

江東区古石場文化センター



お食事券が当たる!!

映画をご鑑賞いただいた方の中から抽選で20名様に「深川ギャザリア内のレストランお食事券」(1,000円分)をプレゼントいたします。詳細は会場にて。



10:00

### 東京物語

世界の映画人に愛される小津作品  
親子とは、家族とは、情愛とは……。人生の永遠のテーマを何気なく自然に滲み出させる物語。日本映画史に残る名作。江東区でロケハンもされました。



©1953/2017 松竹株式会社

【監督】小津安二郎  
【出演】笠智衆／東山千栄子／原節子  
1953年 135分

上映後  
トークイベント



ゲスト 笠兼三  
俳優(笠智衆 孫)

14:00

### 虹をつかむ男

松竹の伝統を継ぐ山田洋次の人情喜劇映画を愛してやまない映画館主をめぐる人達の人間模様を、スクリーンに映し出される数々の名画と共に描いた作品。『男はつらいよ』に代わるお正月映画として制作されました。



©1996 松竹株式会社

【監督】山田洋次 【助監督】阿部勉  
【出演】西田敏行／吉岡秀隆／田中裕子  
1996年 120分

上映後  
トークイベント



ゲスト 阿部勉  
映画監督

18:00

### 晩春

戦後の“小津調”を確立した作品  
娘の結婚をめぐって、父と娘が、お互いそれぞれを思いやる物語。戦後の小津作品の不滅のヒロインとなる原節子が初めて出演した作品です。



©1949/2015 松竹株式会社

【監督】小津安二郎  
【出演】笠智衆／原節子／月丘夢路  
1949年 108分

上映前  
トークイベント



ゲスト 中井貴恵  
俳優(佐田啓二 長女)

10:00

### 結婚哲学

小津が敬愛するルビッチ監督の作品  
ウィーンの上流階級を舞台に繰り広げられる、男女の恋愛模様をコミカルに描いた作品。洒落た演出や巧みな技法などの“ルビッチ・タッチ”は、小津に大きな影響を与えました。

弁士澤登翠

無声映画+活弁



写真提供：(株)マツダ映画社

【監督】エルンスト・ルビッチ  
【出演】アドルフ・マンジュー／マリー・ブレイヴオスト  
1924年 85分 アメリカ



弁士 澤登翠



伴奏 カラード・モントーン

13:00

### 東京の合唱 (コーラス)

生誕100年・高峰秀子出演の小津作品  
不景気時代のサラリーマン一家の生活を、ほろ苦いユーモアと正義感や家庭的な人情味を込めて描いた小市民映画の秀作。幼い子どもを子役時代の高峰秀子が演じています。

弁士坂本頼光

無声映画+活弁



写真提供：(株)マツダ映画社

【監督】小津安二郎  
【出演】岡田時彦／八雲恵美子／高峰秀子  
1931年 90分



ゲスト 斎藤明美  
作家(高峰秀子 養女)



弁士 坂本頼光  
伴奏カラード・モントーン

16:20

### PERFECT DAYS

小津をリスペクトするヴェンダースの作品  
東京・渋谷の公衆トイレの清掃員の日々を描いた作品。清掃員の平山を演じた役所広司はカンヌ映画祭で最優秀男優賞を受賞しました。江東区亀戸でもロケをしています。



©2023 MASTER MIND Ltd.

【監督】ヴィム・ヴェンダース 【共同脚本】高崎卓馬  
【出演】役所広司／柄本時生／中野有紗  
2023年 124分 ドイツ・日本

上映後  
トークイベント



ゲスト 高崎卓馬  
プロデューサー、脚本家

チケット各800円(当日200円増)  
開場時間は、各回上映20分前です。



10:00

### カツベン!

小津をこよなく愛する周防監督の作品  
活動弁士を夢見る若き青年を主人公に、個性的なキャラクターたちが織りなす、アクションあり、笑いあり、涙ありの映画愛に満ち溢れた日本映画始まりの頃の物語です。



©2019「カツベン!」製作委員会

【監督】周防正行  
【出演】成田凌／黒島結葉／草刈民代  
2019年 127分

上映後トークイベント



ゲスト 周防正行  
映画監督



草刈民代  
俳優

14:00

### 写楽

葛重、写楽、歌麿達の世紀末江戸の時代劇  
江戸の版元、葛屋重三郎。そのまわりにはいた天才絵師・歌麿。そして、突如現れた謎の絵師・写楽をめぐる物語を小津映画にもついた経験のある篠田正浩が監督した作品です。



©1995「写楽」製作委員会

【監督】篠田正浩  
【出演】真田広之／フランキー堺／佐野史郎  
1995年 138分

上映後  
トークイベント



ゲスト 佐野史郎  
俳優

17:50

### 彼岸花

小津安二郎最初のカラー作品  
豪華俳優を揃えて、小津自身が心ゆくまで愉しんで撮っていることが感じられるホームコメディ。華やかな色彩感覚、小道具や衣裳へのこだわりが感じられる作品です。



©1958/2013 松竹株式会社

【監督】小津安二郎  
【出演】佐分利信／田中絹代／山本富士子  
1958年 118分

上映前  
トークイベント



ゲスト 兼松熙太郎  
撮影監督